

# Retek® Data Warehouse 10.0



## 中間層インストールガイド



## 企業本部

Retek Inc.  
Retek on the Mall  
950 Nicollet Mall  
Minneapolis, MN 55403

888.61.RETEK (toll free US)  
+1 612 587 5000

本マニュアルで説明されるソフトウェアは、ライセンス契約のもとに提供され、その契約条件に従う場合にのみ使用できます。

## 欧州本部

Retek  
110 Wigmore Street  
London  
W1U 3RW  
United Kingdom

電話番号 (代表):

+44 (0)20 7563 4600

セールス窓口:

+44 (0)20 7563 46 46

Fax: +44 (0)20 7563 46 10

本マニュアルの情報は予告なく変更されることがあります。

Retek は内容の保全を図るため、製品資料を読み取り専用フォーマットで提供します。Retek カスタマサポートは、Retek の許可なく変更された資料についてはサポート致しかねます。

## Retek 日本オフィス

〒107-0061  
東京都港区  
北青山 3-6-7  
青山パラシオタワー 11F  
+81 (0)3 5778-7620  
Fax: +81 (0)3 5778-7640

Retek<sup>®</sup> Data Warehouse<sup>™</sup> は、Retek Inc. の商標です。

Retek、および Retek のロゴは、Retek Inc. の登録商標です。

©2002 Retek Inc. All rights reserved.

本マニュアルで言及されている他の製品名はすべて、各社の商標または登録商標であり、それに準じた取り扱いをする必要があります。

米国にて印刷。

## カスタマサポート

### カスタマサポート時間帯:

中央標準時 (GMT-6) に基づく月曜日から金曜日の 8AM ~ 5PM。Retek 社の休業日 (2002 年度は 1/1、5/27、7/4、7/5、9/2、11/28、11/29、12/25) を除く。

### 緊急時カスタマサポート時間帯:

週 7 日間 (24 時間)。

### お問い合わせ方法 連絡先

電話	米国およびカナダ: 1-800-61-RETEK (1-800-617-3835) その他の地域: +1 612-587-5000
FAX	(+1) 612-587-5100
電子メール	support@retек.com
インターネット	<a href="http://www.retek.com/support">www.retek.com/support</a> Retek 社のお客様向け Web サイトです。問題に関する最新の情報を参照することができます。
メール	Retek カスタマサポート Retek on the Mall 950 Nicollet Mall Minneapolis, MN 55403

カスタマサポートにご連絡いただく前に、下記の内容をご確認ください。

- 製品のバージョンおよびプログラム/モジュールの名前
- 具体的、技術的な症状 (業務に与える影響を含む)
- 問題の詳細な再現手順
- 正確なエラーメッセージ
- 問題の操作を確認できるスクリーンショット (手順ごと)



# 目次

<b>第 1 章</b>	<b>サーバーおよびシステムの要件</b>	<b>1</b>
	MicroStrategy Intelligence Server	1
	Oracle ユーザー	1
	IBM DB2 ユーザー	1
	Teradata	1
	MicroStrategy Desktop の要件 (管理者)	1
	Oracle ユーザー	1
	IBM DB2 ユーザー	2
	Teradata	2
	MicroStrategy Desktop の要件 (ユーザー)	2
<b>第 2 章</b>	<b>RDW 中間層インストール</b>	<b>3</b>
	クライアント ODBC のインストール	3
	Oracle クライアントのインストール	3
	TNS 名のファイル	4
	IBM DB2 クライアントのインストール	5
	MicroStrategy 認定 32 ビット ODBC のインストール	5
	NCR Teradata クライアントのインストール	7
	MicroStrategy 認定 32 ビット ODBC のインストール	7
	MicroStrategy Desktop (管理者) のインストール	9
	Configuration Wizard	9
	RDW 10.0 Workbench のインストール	11
	MicroStrategy Intelligence Server のインストール	12
	Configuration Wizard	13
	RDW 10.0 Workbench プロジェクトの登録 (3 層接続のみ)	14
	MicroStrategy Desktop のインストール (ユーザー)	15
	RDW ユーザー、ユーザーグループ、およびセキュリティの役割	17
	ユーザー	17
	ユーザーグループ	17
	セキュリティの役割	18
<b>付録 A</b>	<b>時間</b>	<b>19</b>
	時間カレンダー (4-5-4)	19
	時間カレンダー (13 期間)	19



## 第 1 章 サーバーおよびシステムの要件

本マニュアルでは、MicroStrategy 7 製品のインストールおよびメタデータリポジトリの設定の方法について説明します。サーバーおよびシステムの要件、クライアントのインストール方法、および ODBC の設定方法が記載されています。

### MicroStrategy Intelligence Server

MicroStrategy Intelligence Server システムの要件の完全なリストおよびサイズ変更要因については、『MicroStrategy 7 Intelligence Server、Web、Architect、Agent、および Administrator のインストールと設定ガイド』を参照してください。

MicroStrategy Intelligence Server のソフトウェア要件は以下のとおりです。

#### Oracle ユーザー

- Oracle 9i Client 9.0.1.1.1
- Oracle 9i (32 ビット) ODBC Driver 9.0.1.0.1
- MicroStrategy Intelligence server 7.1.4

#### IBM DB2 ユーザー

- IBM DB2 Run-Time Client 7.1
- IBM DB2 (32 ビット) ODBC Driver 7.1.0.4
- MicroStrategy Intelligence server 7.1.4

#### Teradata

- Teradata Client for Windows 9x/NT/2000
- Teradata (32 ビット) ODBC Driver 3.0.0.0
- MicroStrategy Intelligence server 7.1.4

### MicroStrategy Desktop の要件 (管理者)

MicroStrategy Desktop (管理者) の完全なリストおよびサイズ変更要因については、『MicroStrategy 7 Intelligence Server、Web、Architect、Agent および、Administrator のインストールと設定ガイド』を参照してください。

管理者のワークステーションのソフトウェア要件は、以下のとおりです。

#### Oracle ユーザー

- Oracle 9i Client 9.0.1.1.1
- Oracle 9i (32 ビット) ODBC Driver 9.0.1.0.1
- MicroStrategy Desktop および Administrator 7.1.4

## IBM DB2 ユーザー

- IBM DB2 Run-Time Client 7.1
- IBM DB2 (32 ビット) ODBC Driver 7.1.0.4
- MicroStrategy Desktop および Administrator 7.1.4

## Teradata

- Teradata Client for Windows 9x/NT/2000
- Teradata (32 ビット) ODBC Driver 3.0.0.0
- MicroStrategy Desktop および Administrator 7.1.4

**注:** クライアント側 ODBC は、2 層接続、つまりデータベースに直接接続する場合にのみ必要です。管理者が必要とされるのは、プロジェクトを複製するためにダイレクトモードで接続する場合のみです。

## MicroStrategy Desktop の要件 (ユーザー)

MicroStrategy Desktop (ユーザー) の完全なリストおよびサイズ変更要因については、『MicroStrategy 7 Intelligence Server、Web、Architect、Agent、および Administrator のインストールと設定ガイド』を参照してください。

エンドユーザークライアントのワークステーションのソフトウェア要件は、以下のとおりです。

- MicroStrategy 7.1.4 Desktop

**注:** クライアント側 ODBC は、3 層接続、つまりサーバーモードで接続する場合にのみ必要です。サーバーモードは、MicroStrategy Desktop を通して接続する一般的なユーザーに推奨される接続方法です。



## 第 2 章 RDW 中間層インストール

この章では、MicroStrategy Intelligence Server および Desktop の一般的なインストール手順および推奨される設定事項について説明します。手順の詳細な説明については、『MicroStrategy 7 Intelligence Server、Web、Architect、Agent、および Administrator のインストールと設定ガイド』を参照してください。この章では、RDW 10.0 Workbench メタデータプロジェクトへの接続に必要な手順についても説明します。次の手順を必ず所定の順序で実行してください。

### クライアント ODBC のインストール

データベースクライアント ODBC は、MicroStrategy Intelligence Server および MicroStrategy Desktop 管理者のマシンにインストールする必要があります。一般的な MicroStrategy Desktop ユーザーには、Intelligence Server を介して 3 層接続することをお勧めします。その場合、データベースクライアント ODBC は必要ありません。

**注:** 標準的なクライアントのインストール方法を次に示します。インストール方法は、データベースやバージョンによって異なる場合があります。これは推奨される手順であり、環境によって異なる場合があります。

### Oracle クライアントのインストール

#### MicroStrategy 認定 32 ビット ODBC のインストール

MicroStrategy Intelligence Server とともに使用される MicroStrategy 認定 32 ビット Oracle ODBC は、MicroStrategy 7 CD に含まれていません。Oracle 9.0.1 Client Software CD を使用するか、Oracle に問い合わせて認定ドライバを入手してください。

#### 認定 32 ビット ODBC ドライバ

##### Oracle 9.0.1(9i) データベース用の認定 32 ビット Client および ODBC ドライバ

32 ビット Oracle9i Client および ODBC Driver 9.0.1.0.1 をインストールします。

- 1 Oracle 9i Client Software CD から setup.exe を実行します。
- 2 ようこそ画面で **[Next]** をクリックして、インストールを開始します。
- 3 **[Next]** をクリックして、既定の Oracle ホーム設定を承認します。
- 4 次の画面で **[Custom Installation]** を選択し、**[Next]** をクリックします。

**注:** この時点でインストーラがエラーを表示した場合、別の Oracle バージョンに対して作成された元の Oracle ホームにインストールしようとしていないかを確認します。その場合は **[Previous]** をクリックし、Oracle9i ホームに別のディレクトリを指定して、そこに製品をインストールします。

- 5 Oracle9i Client 9.0.1.1.1 の次の製品を選択します。
  - [Oracle Programmer] を展開し、[Oracle ODBC Driver 9.0.1.0.1] 以外の選択をすべて解除します。
- 6 **[Next]** をクリックします。
- 7 必要なパスおよびディスク領域が正しいことを確認します。**[Next]** をクリックします。
- 8 選択したコンポーネントを確認し、**[Install]** をクリックします。
- 9 インストールが完了すると、Net Configuration Assistant が開きます。**[Cancel]** をクリックします。
- 10 **[Exit]** をクリックしてインストールを終了します。
- 11 メッセージの指示があった場合はコンピュータを再起動します。

## TNS 名のファイル

これは、ネットサービス名にマッピングされる接続記述子を含んでいるファイルです。ファイルはすべてのクライアントまたは個々のクライアントが使用できるように、中央またはローカルで保守できます。ファイルがネットワーク上にある場合は、tnsnames.ora ファイルの最新バージョンをディレクトリ

c:\<oracle home>\network\admin にローカルにコピーします。これは、MicroStrategy Intelligence のサーバーマシン、およびデータベースに直接接続しなければならないすべてのマシンで、ローカルに実行する必要があります。

このファイルの詳細については、Oracle マニュアルの『Net Services 管理者ガイド』を参照してください。

### 32 ビット ODBC システム DSN の確立

- 1 [スタート] メニューから、[設定]、[コントロールパネル] の順に選択します。[管理ツール] をダブルクリックします。[データソース (ODBC)] をダブルクリックします。
- 2 [システム DSN] タブをクリックします。
- 3 **[追加]** をクリックします。
- 4 前の手順でインストールした Oracle ドライバを選択します。[完了] をクリックします。
- 5 DSN の名前とデータウェアハウスデータベースの接続文字列を入力します (下の例を参照)。
- 6 **[OK]** をクリックします。

**重要:** Intelligence Server のデータウェアハウス DSN は、データベースに直接接続する必要がある各クライアントマシンで使用されるものと整合性がなければなりません。この情報は、プロジェクトソースのメタデータに格納されるため、すべてのユーザーに対して一度だけ定義します。

例:

**Retek データウェアハウス**

データソース名: RDW10

説明: RDW 10 データベース

TNS サービス名: RDW10

**注:** データウェアハウスデータベースの作成は、接続を確立するために必要です。

7 **[接続テスト]** をクリックして、ODBC 接続をテストします。

## IBM DB2 クライアントのインストール

### MicroStrategy 認定 32 ビット ODBC のインストール

MicroStrategy Intelligence Server とともに使用される MicroStrategy 認定 32 ビット DB 2 ODBC は、MicroStrategy 7 CD に含まれていません。DB2 Application Development Client バージョン 7.1 CD を使用するか、IBM に問い合わせて認定ドライバを入手してください。

### 認定 32 ビット ODBC ドライバ

#### DB2 7.1/7.2 データベース用の認定 32 ビット Client および ODBC ドライバ

IBM DB2 Run-Time Client 7.1 および IBM DB2 (32 ビット) ODBC Driver 7.1.0.4 をインストールします。

- 1 DB2 Application Development Client バージョン 7.1 CD から setup.exe を実行します。
- 2 インストールダイアログボックスの **[Install]** をクリックします。
- 3 **[DB2 Application Development Client]** を選択して、**[Next]** をクリックします。
- 4 **[Custom]** を選択して、**[Next]** をクリックします。
- 5 以下のコンポーネントを選択します。
  - コンポーネントプロトコル  
サブコンポーネント - TCP/IP
  - アプリケーション開発インターフェイス  
サブコンポーネント - JDBC サポート、IBM enhanced Java Runtime Environment、および ODBC サポート
  - Base DB2 Client サポート
  - 管理および構成ツール  
サブコンポーネント - Client Configuration Assistant

- 6 **[Next]** をクリックしてから、**[Next]** を再度クリックします。
- 7 **[Finish]** をクリックし、設定を終了します。
- 8 メッセージの指示があった場合はコンピュータを再起動します。

### 32 ビット ODBC システム DSN の確立

- 1 [スタート] メニューから、[プログラム]、[IBM DB2]、[Client Configuration Assistant] の順に選択します。
- 2 **[Add]** をクリックします。
- 3 [Search the Network] を選択します。**[Next]** をクリックします。
- 4 "Known Systems" フォルダを展開し、DB2 データベースの場所を探します。
- 5 ターゲットデータベースを選択します。**[Next]** をクリックします。
- 6 任意のコメントを追加します。**[Next]** をクリックします。
- 7 **[Finish]** をクリックし、設定を終了します。

**重要:** Intelligence Server のデータウェアハウス DSN は、データベースに直接接続する必要がある各クライアントマシンで使用されるものと整合性がなければなりません。この情報は、プロジェクトソースのメタデータに格納されるため、すべてのユーザーに対して一度だけ定義します。

- 8 **[Test]** をクリックして、ODBC 接続をテストします。

### DB 2 ユーティリティのバインド

- 1 [スタート] メニューから、[プログラム]、[IBM DB2]、[Client Configuration Assistant] の順に選択します。
- 2 DB2 データベース (上記手順で追加) を選択します。**[Bind]** をクリックします。
- 3 [Bind DB2 Utilities] がまだ選択されていない場合は選択します。**[Continue]** をクリックします。
- 4 メタデータ所有者の [User] および [Password] を入力します (RDW10MD など)。**[OK]** をクリックします。
- 5 [CLI/ODBC Support] のみを選択します。**[OK]** をクリックします。
- 6 [Bind Results] ページが完了したら、**[Close]** をクリックします。
- 7 **[Close]** をクリックしてバインドを完了したら、Client Configuration Assistant を閉じます。

## NCR Teradata クライアントのインストール

### MicroStrategy 認定 32 ビット ODBC のインストール

MicroStrategy Intelligence Server とともに使用される MicroStrategy 認定 32 ビット Teradata ODBC は、MicroStrategy 7 CD に含まれていません。NCR Teradata V2R5 Client Software CD を使用するか、NCR に問い合わせて認定ドライバを入手してください。

### 認定 32 ビット ODBC ドライバ

#### NCR Teradata V2R5 データベース用の認定 32 ビット Client および ODBC ドライバ

32 ビット NCR Teradata Client および ODBC Driver 3.0.0.0 をインストールします。

- 1 システム上で現在動作している Windows プログラムをすべて終了し、ウィルス対策ソフトウェアをすべて無効にします。
- 2 Teradata Client for Windows 9x/NT/2000 の古いバージョンをすべてアンインストールします。Teradata Program Group の [Uninstall] アイコンをクリックするか、[コントロールパネル] の [アプリケーションの追加と削除] アイコンを使用します。
- 3 配布 CD を CD-ROM ドライブに挿入し、ライセンスフロッピーをフロッピードライブに挿入します。メインメニューが表示されます。メインメニューが表示されない場合は、Windows エクスプローラを使用し、CD-ROM ドライブでファイル TUF.EXE の場所を見つけてダブルクリックします。
- 4 [Install Product] アイコンをクリックします。
- 5 設定言語を選択します。サポートされている設定言語は、英語と日本語だけです。
- 6 ようこそ画面で **[Next]** をクリックします。
- 7 ライセンス契約を読みます。ライセンス契約に同意してインストールを続行する場合は、**[Yes]** をクリックします。
- 8 目的のオプションを強調表示して、設定タイプを選択します。**[Next]** をクリックします。**[Typical]** インストールを使用し、すべてのライセンス製品を CD-ROM からインストールします。
- 9 ライセンスファイル (license.txt) を選択して、**[Open]** をクリックします。
- 10 CD-ROM からインストールする場合、ライセンスファイルは添付のフロッピーディスクに含まれています。フロッピーディスクをフロッピードライブに挿入します。適切なフロッピーがドライブ A に挿入されていることを確認します。
- 11 インストール先フォルダを選択し、**[Next]** をクリックします。
- 12 プログラムフォルダを選択し、**[Next]** をクリックします。

- 13 [Select Method Install] ウィンドウで、[ODBC] をクリックします。これにより、Teradata に必要なドライバがインストールされます。
- 14 ようこそ画面で、[Next] をクリックします。
- 15 インストール先フォルダを選択し、[Next] をクリックします。
- 16 [Typical] インストールを選択します。
- 17 [Select Program Folder] ウィンドウで、[Next] をクリックします。
- 18 [Start Copying Files] ウィンドウで、[Next] をクリックします。
- 19 ウィザードによって、コンポーネントがインストールされます。[Finish] をクリックします。
- 20 メッセージの指示があった場合はコンピュータを再起動します。

### 32 ビット ODBC システム DSN の確立

- 1 [スタート] メニューから、[設定]、[コントロールパネル] の順に選択します。[管理ツール] をダブルクリックします。[データソース (ODBC)] をダブルクリックします。
- 2 [システム DSN] タブをクリックします。
- 3 **[追加]** をクリックします。
- 4 前の手順でインストールした Teradata ドライバを選択します。**[完了]** をクリックします。
- 5 設定ダイアログボックスが表示されます。それぞれのシステムのパラメータを入力します。

**注:** ODBC の設定は、OS バージョンやデータベースタイプによって異なります。

- 6 [オプション] を選択し、[Use Column Names]、[Run in Quiet Mode]、および [Disable Parsing] チェックボックスをオンにします。以下のように表示されるオプションを選択します。
  - [Session Mode] : [System Default]
  - [DateTime Format] : [III]
- 7 **[OK]** をクリックします。
- 8 **[OK]** を再度クリックします。
- 9 **[OK]** をクリックして ODBC ダイアログボックスを閉じます。

**重要:** Intelligence Server のデータウェアハウス DSN は、データベースに直接接続する必要がある各クライアントマシンで使用されるものと整合性がなければなりません。この情報は、プロジェクトソースのメタデータに格納されるため、すべてのユーザーに対して一度だけ定義します。

**注:** データウェアハウスデータベースの作成は、接続を確立するために必要です。

- 10 [スタート] メニューの [Queryman] を使用して、ODBC 接続をテストします。[ユーザー名] と [パスワード] 以外はすべて空白のままにします。

## MicroStrategy Desktop (管理者) のインストール

MicroStrategy インストール CD-ROM には、簡単なインストールプログラムが含まれています。これは、MicroStrategy Desktop および Administrator をインストールするときに使用する必要があります。

**注:** MicroStrategy Desktop および Administrator のインストール手順の詳細については、『MicroStrategy 7 Intelligence Server、Web、Architect、Agent、および Administrator のインストールと設定ガイド』を参照してください。

インストールプロセスを開始する前に、Microsoft Office ショートカットバーのすべてのアプリケーションが閉じていることを確認し、サービスとして動作しているすべてのアプリケーションを停止します。また、インストールの前に、ウイルス対策プログラムやディスク監視システムをすべて無効にします。これは、ファイルの登録を正常に行うために必要です。

データベース ODBC クライアントがインストールされたら、次の手順を開始します。

### MicroStrategy Desktop のインストール

- 1 MicroStrategy CD を CD-ROM ドライブに挿入し、インストールのようこそ画面が自動的に表示されるまで少し待ちます。
- 2 ようこそ画面が表示されない場合は、CD から `setup.exe` を実行します。
- 3 メッセージの指示があった場合はインストールキーを入力します。
- 4 [Typical Install] を選択します。
- 5 [MicroStrategy Desktop and Administrator] のみを選択します。
- 6 **[Next]** をクリックします。
- 7 メッセージの指示があった場合はコンピュータを再起動します。

## Configuration Wizard

MicroStrategy 7 Desktop をインストールしたら、[スタート]、[プログラム]、[MicroStrategy 7] の順に選択し、[Configuration Wizard] をクリックします。

### メタデータリポジトリの設定

新規メタデータリポジトリ (MicroStrategy 表) を作成するには 2 つの方法があります。次のいずれかの方法です。

- 1 メタデータリポジトリ (MicroStrategy 表) を RDW 10.0 インストール CD からインポートする (詳細は『Retek® Data Warehouse 10 データベースインストールガイド』)。

または

- 2 MicroStrategy Configuration Wizard を使用して、新規リポジトリを作成する。

2 番目のオプションを選択した場合、次の手順に従います。そうでない場合は、このマニュアルの次のセクションに進んでください。

**注:** この手順には、メタデータデータベースユーザーおよびパスワードが必要です。このユーザーには表を作成する権限が必要であり、ユーザーは固有のリポジトリを所有することになります。

メタデータリポジトリを設定すると、Configuration Wizard によって以下のページが表示されます。

- Metadata Repository Configuration Tasks
- ODBC Data Source Name for Metadata Repository
- Metadata Repository and Statistics Tables Creation
- Summary

#### メタデータリポジトリの設定手順

- 1 **[Next]** をクリックします。MicroStrategy 7 メタデータ表だけを作成したい場合は、統計表を作成するオプションの選択を解除します。
- 2 既存の ODBC DSN をドロップダウンメニューから選択するか、**[New]** をクリックして新しい DSN を作成します。メタデータデータベースユーザー名およびパスワード (rdw10md など) を入力します。
- 3 **[Next]** をクリックして作業を続行します。
- 4 適切なデータベースバージョンを選択し、**[Next]** をクリックしてメタデータ表を作成します。
- 5 メタデータリポジトリの権限とシノニムを確立するには、『Retek® Data Warehouse 10 データベースインストールガイド』の「RDW ユーザー権限の設定」のセクションを参照してください。

### MicroStrategy プロジェクトソースの設定

#### RDW 10.0 Workbench を指すプロジェクトソースの作成手順

🔄 **ナビゲート:** [スタート]、[プログラム]、[MicroStrategy 7]、[Desktop] の順に選択して、MicroStrategy Desktop を起動します。

- 1 Administrator として、または管理者権限を持つユーザーとしてログインします。

**注:** 個々のユーザーアカウント設定の手順の詳細については、『MicroStrategy 7 Administrator、Intelligence Server、および Web Administrator ガイド』の「User Manager」セクションを参照してください。

- 2 [Desktop] メニューバーから、[Tools]、[Project Source Manager] の順に選択します。
- 3 **[Add]** をクリックします。



- 4 2 層、つまりダイレクト接続の場合
  - a プロジェクト名 (RDW 10.0 Data Warehouse – Direct など) を入力します。
  - b 接続モードに [Direct] を選択します。
  - c メタデータデータベースシステムユーザーの ODBC DSN、ログイン ID、およびパスワード (rdw10sys など) を入力します。
  - d **[OK]** をクリックします。

**注:** 2 層接続は、プロジェクト複製の場合にのみ必要です。RDW メタデータインストールウィザードでは、MicroStrategy 複製プロセスを使用するため、2 層接続が必要になります。

- 5 3 層、つまりサーバー接続の場合、次の手順に従います (**この手順は Intelligence Server のインストール後に完了できます**)。
  - a プロジェクト名 (RDW 10.0 Data Warehouse – Direct など) を入力します。
  - b 接続モードに [Server] を選択します。
  - c Intelligence Server が動作しているサーバーマシン名を入力します。

**注:** これはサーバーのマシン名であり、Intelligence Server の定義名ではありません。

- d **[OK]** をクリックします。

**注:** 最初に 3 層プロジェクトにログインする場合、プロジェクトを表示するための登録が必要です。次の「RDW 10 Workbench プロジェクトの登録」のセクションを参照してください。

## RDW 10.0 Workbench のインストール

RDW 10.0 インストール CD-ROM には、簡単なインストールプログラムが含まれています。これは、RDW 10.0 Workbench をインストールするときに使用する必要があります。RDW Workbench は MicroStrategy プロジェクトと同義であり、Retek データウェアハウスのメタデータオブジェクト (レポートやメトリックなど) をすべて含んでいます。

### インストール前の要件

- 既存のメタデータリポジトリ (MicroStrategy 表)
- ローカル MicroStrategy Desktop のインストール

### 以下を必要とします。

- 2 層 (ダイレクト) 接続プロジェクトソース。存在しない場合は、ウィザードによってインストール中に作成できます。
- 上記のプロジェクトソースに対する Micro Strategy 管理者のログイン ID およびパスワード。新規の MicroStrategy メタデータリポジトリに対する既定のログイン ID は「Administrator」であり、パスワードはありません。

RDW メタデータインストールウィザードは、\Install\rdw10.0\metadata\ の下の RDW 10.0 インストール CD にあります。setup.exe を実行してウィザードを開始します。

**注:** ウィザードは MicroStrategy ユーティリティを使用して RDW Workbench をコピーまたは複製します。プロジェクト複製は冗長なプロセスです。MicroStrategy 複製ユーティリティは、現在処理中のオブジェクトのタイプと数に基づいて残り時間を見積もり、定期的に残り時間を更新します。

**重要:** Administration によってアクセスできる初期のデータベースインスタンス Database Instance Manager は、既定の rdw10sys ユーザー名またはパスワードへの変更を反映するために更新する必要があります。

**重要:** RDW 10.0 は、小売 4-5-4 または 13 カレンダーをサポートします。既定カレンダーは小売 4-5-4 です。13 期間カレンダーを実装するための更新が必要なメタデータオブジェクトのリストについては、このマニュアルの「付録 A」を参照してください。

## MicroStrategy Intelligence Server のインストール

MicroStrategy Intelligence Server のインストールには、ネットワーク接続が必要です。この手順の詳細については、Microsoft サーバーのインストールマニュアルを参照してください。適切なネットワークアクセスについては、システム管理者に問い合わせてください。

MicroStrategy インストール CD-ROM には、簡単なインストールプログラムが含まれています。これは、MicroStrategy Intelligence Server をインストールするときに使用する必要があります。

**注:** MicroStrategy Intelligence Server のインストール手順の詳細については、『MicroStrategy 7 Intelligence Server、Web、Architect、Agent、および Administrator のインストールと設定ガイド』を参照してください。

インストールプロセスを開始する前に、Microsoft Office ショートカットバーのすべてのアプリケーションが閉じていることを確認し、サービスとして動作しているすべてのアプリケーションを停止します。また、インストールの前に、ウイルス対策プログラムやディスク監視システムをすべて無効にします。これは、ファイルの登録を正常に行うために必要です。

データベース ODBC クライアントをインストールしたら、次の手順を開始します。

### MicroStrategy Intelligence Server のインストール

MicroStrategy CD を CD-ROM ドライブに挿入し、インストールのようこそ画面が自動的に表示されるまで少し待ちます。

ようこそ画面が表示されない場合は、CD から `setup.exe` を実行します。

- 1 メッセージの指示があった場合はインストールキーを入力します。
- 2 標準インストールを選択します。
- 3 [MicroStrategy Intelligence Server] 以外のオプションの選択をすべて解除します。
- 4 **[Next]** をクリックします。
- 5 メッセージの指示があった場合はコンピュータを再起動します。

## Configuration Wizard

MicroStrategy 7 Intelligence Server をインストールしたら、Intelligence Server マシンで [スタート]、[プログラム]、[MicroStrategy 7] の順に選択し、[Configuration Wizard] をクリックします。

### MicroStrategy Intelligence Server Definition の設定

MicroStrategy Intelligence Server Definition を設定すると、Configuration Wizard によって以下のページが表示されます。

- Connect to Metadata Repository
- User Authentication
- Create, Link, or Delete a Server Definition
- Summary

### MicroStrategy Intelligence Server Definition の設定手順

- 1 [MicroStrategy Intelligence Server Definitions] を選択します。**[Next]** をクリックします。
- 2 既存の ODBC DSN をドロップダウンメニューから選択するか、**[New]** をクリックして新しい DSN を作成します。RDW システムのユーザー名およびパスワード (`rdw10sys` など) を入力します。
- 3 メタデータリポジトリに接続するために使用する MicroStrategy のユーザー名およびパスワードを入力します。MicroStrategy Intelligence Server に初めて接続する場合は、パスワードなしで名前に “Administrator” を使用します。セキュリティ上の理由から、このパスワードを変更することをお勧めします。

**注:** 個々のユーザーアカウント設定の手順の詳細については、『MicroStrategy 7 Administrator、Intelligence Server、および Web Administrator ガイド』の「User Manager」セクションを参照してください。

- 4 [Server Definition Name] に入力し、[Create New Server Definition] を選択します。
- 5 **[Finish]** をクリックします。

### MicroStrategy プロジェクトソースの設定 (オプション)

**注:** Intelligence Server マシンにプロジェクトソースを作成して直接使用できるようにしたほうが便利です。これはオプションです。プロジェクトソースは、以下のセクション (「MicroStrategy Desktop のインストール (管理者)」および「MicroStrategy Desktop のインストール (ユーザー)」) で作成できます。

プロジェクトソースを設定すると、Configuration Wizard によって以下のページが表示されます。

- Desktop Project Source Name and Connection Type
- MicroStrategy Intelligence Server Location
- Setup Project Source Security
- Summary

#### MicroStrategy プロジェクトソースの設定手順

- 1 プロジェクトソースを選択します。 **[Next]** をクリックします。
- 2 プロジェクトソースの名前を入力します。[MicroStrategy Intelligence Server] を選択します。 **[Next]** をクリックします。
- 3 ドロップダウンボックスから、MicroStrategy Intelligence Server のマシン名を選択します。既定のポート番号を使用します。 **[Next]** をクリックします。
- 4 [Standard Authentication] (既定) を選択します。 **[Next]** をクリックします。
- 5 **[Finish]** をクリックします。
- 6 **[Exit]** をクリックして、Configuration Wizard を閉じます。

### RDW 10.0 Workbench プロジェクトの登録 (3 層接続のみ)

RDW 10.0 Workbench プロジェクトをインストールしたら、プロジェクト用に登録する必要があります。プロジェクトは、登録するまでアクセスできません。

#### RDW 10.0 Workbench プロジェクトの登録

🔄 **ナビゲート:** [スタート]、[プログラム]、[MicroStrategy 7]、[Desktop] の順に選択して、MicroStrategy Desktop を起動します。

- 1 RDW 10.0 Workbench を含んでいるプロジェクトソースに Administrator として、または管理者権限を持ったユーザーとしてログインします。

**注:** 個々のユーザーアカウント設定の手順の詳細については、『MicroStrategy 7 Administrator、Intelligence Server、および Web Administrator ガイド』の「User Manager」セクションを参照してください。

- 2 プロジェクトソースが選択されていることを確認し、Desktop メニューバーから [Administration]、[Projects]、[Register projects] の順に選択します。
- 3 個々の RDW 10.0 Workbench を選択します。
- 4 **[OK]** をクリックします。
- 5 登録を有効にするには、Intelligence Server の再起動が必要な場合があります。

## MicroStrategy Desktop のインストール (ユーザー)

MicroStrategy インストール CD-ROM には、簡単なインストールプログラムが含まれています。これは、MicroStrategy Desktop をインストールするときに使用する必要があります。

**注:** MicroStrategy Intelligence Server のインストール手順の詳細については、『MicroStrategy 7 Intelligence Server、Web、Architect、Agent、および Administrator のインストールと設定ガイド』を参照してください。

インストールプロセスを開始する前に、Microsoft Office ショートカットバーのすべてのアプリケーションが閉じていることを確認し、サービスとして動作しているすべてのアプリケーションを停止します。また、インストールの前に、ウイルス対策プログラムやディスク監視システムをすべて無効にします。これは、ファイルの登録を正常に行うために必要です。

次の手順は、アプリケーションの動作、およびデータベース接続のために必要であり、この順序で実行します。

**注:** 管理者でない MicroStrategy Desktop ユーザーは、3 層接続、つまりサーバーに接続するため、データベースクライアントソフトウェアをインストールする必要はありません。

### MicroStrategy Desktop のインストール

- 1 MicroStrategy CD を CD-ROM ドライブに挿入し、インストールのようこそ画面が自動的に表示されるまで少し待ちます。
- 2 ようこそ画面が表示されない場合は、CD から setup.exe を実行します。
- 3 メッセージの指示があった場合はインストールキーを入力します。
- 4 [Typical Install] を選択します。
- 5 [MicroStrategy Desktop] のみを選択します。
- 6 **[Next]** をクリックします。
- 7 メッセージの指示があった場合はコンピュータを再起動します。

**MicroStrategy プロジェクトソースの設定**

RDW 10.0 Workbench を指すプロジェクトソースを次のように作成します。

- 1 プロジェクト管理者によりユーザーアカウントが確立されていることを確認します。

**注:** 個々のユーザーアカウント設定の詳細については、『MicroStrategy Administrator ガイド』の「User Manager」セクションを参照してください。

- 2 [スタート]、[プログラム]、[MicroStrategy 7]、[Desktop] の順に選択して、Desktop を起動します。
- 3 [Desktop] メニューバーから、[Tools]、[Project Source Manager] の順に選択します。
- 4 **[Add]** をクリックします。
- 5 プロジェクト名 (たとえば、RDW 10.0 Data Warehouse) を入力します。
- 6 接続モードに [Server] を選択します。
- 7 Intelligence Server が動作しているサーバーマシン名を入力します。

**注:** これはサーバーのマシン名であり、Intelligence Server の定義名ではありません。

- 8 **[OK]** をクリックします。

## RDW ユーザー、ユーザーグループ、およびセキュリティの役割

ユーザーおよびユーザーグループは、以下の既定権限であらかじめ定義されています。これらの権限は、プロジェクトソース内のすべてのプロジェクトに適用されます。これらのユーザーは、User Manager を通して管理されます。

セキュリティの役割は、それぞれ各プロジェクトに適用され、プロジェクト設定の一部として管理されます。

**注:** ユーザーアカウントまたはセキュリティの役割を作成する手順の詳細については、『MicroStrategy Administrator ガイド』の「User Manager」セクションを参照してください。

### ユーザー

**Administrator** – これは MicroStrategy Desktop と RDW Web の両方のプロジェクト管理者です。このユーザーは、すべてのオブジェクトレベルセキュリティをバイパスします。

### ユーザーグループ

**注:** 各ユーザーアカウントはドリル、並べ替え、ピボット、および Desktop の表示モードの変更を行えます。

**Retek Report Viewer** – このユーザーグループは、RDW Web および MicroStrategy Desktop で検索、ユーザー設定の変更、印刷、およびレポートの実行を行えます。

**Retek Web Reporter** – このユーザーグループは、Report Viewer 権限を継承し、RDW Web で並べ替え、表示モードの変更、ドリル、および履歴の表示を行えます。

**Retek Web Analyst** – このユーザーグループは、Web Reporter 権限を継承し、RDW Web で新規レポートの作成およびオブジェクトの削除を行えます。

**Retek Desktop Reporter** – このユーザーグループは、Web Analyst 権限を継承し、レポート、テンプレート、フィルタ、メトリックなどのレポートオブジェクトの作成、保存、修正をそれらのプロファイル内で行えます。

**System Monitors** – このグループにはプロジェクトレベルの継承した権限はありませんが、このグループのすべてのユーザーは管理フォルダに対する表示権限を持っています。これらのフォルダはリポジトリ内のウェアハウス、接続、ユーザー、キャッシュ設定を監視します。

**System Administrator** – このグループは、プロジェクト管理者のすべての権限を継承します。Administrator および Web Administrator は、このグループの一部でなければなりません。

## セキュリティの役割

**Administrator** – このセキュリティの役割は、特定のプロジェクトに対する管理者権限をユーザーまたはユーザーグループに与えます。

**Architect** – このセキュリティの役割は、スキーマレベルオブジェクトの作成および修正を行うための特定のプロジェクトに対する権限をユーザーまたはユーザーグループに与えます。

**Power User** – このセキュリティの役割は、パブリックレベルオブジェクトの作成および修正を行うための特定のプロジェクトに対する権限をユーザーまたはユーザーグループに与えます。

**Normal User** – このセキュリティの役割は、ユーザーまたはユーザーグループで定義された権限しか持っていません。すべてのユーザーは、特に指定がない限り、既定で Normal User になっています。



## 付録 A 時間

### 時間カレンダー (4-5-4)

RDW は、小売 4-5-4 カレンダーをサポートします。会計 4-5-4 カレンダーは、RMS および他の Retek アプリケーションがサポートするカレンダーであり、RMS からの抽出により RDW で入力されます。4-5-4 カレンダーは、RDW の MicroStrategy 中間層を介して時間ディメンションを表示するときに使用される既定カレンダーです。

### 時間カレンダー (13 期間)

13 期間カレンダーは、この GA 製品で新たに導入されたものであり、RMS ではサポートされていません。クライアントが 4-5-4 カレンダーの代わりに 13 期間カレンダーの使用を選択した場合、クライアントは 13 期間時間によるフラットファイルを提供するか、サンプルの 13 期間時間フラットファイルを使用できます。RDW インストールの間に、ETL スクリプトにより、このファイルでの時間ディメンションが入力されます。中間層アプリケーション内では、13 期間の用語に準拠するために [月] に対するすべての参照を手動で [期間] に更新する必要があります。

**注:** RDW を更新して 13 期間時間でレポートするには以下を実行します。

時間ディメンション表を更新します。(詳細な手順については、『Retek® Data Warehouse 10 データベースインストールガイド』を参照)

メタデータ内で、属性 "半年" を削除し、月を参照するオブジェクトの名前を変更します。

属性 "半年" を削除するには、オブジェクトを強調表示して Delete キーを押します。すべての関係および階層は自動的に更新されます。表 TIME\_HALF\_DM も同じ方法で削除できます。この手順の後にスキーマ全体を更新する必要があります。これは、[スキーマ] ドロップダウンメニューから行います。管理者権限を持つユーザーだけが、属性を削除してスキーマを更新することができます。

各メタデータオブジェクトの名前を変更するには、オブジェクトを選択して F2 を押します。スキーマオブジェクトフォルダ内のオブジェクトに対する変更を実行したら、スキーマ全体を更新する必要があります。管理者権限を持つユーザーだけが、これらのプロジェクトの名前を変更してスキーマを更新することができます。

次の表に、13 期間時間用に名前を変更されるオブジェクトを示します。

オブジェクト名	オブジェクトタイプ
市場測定 (前月)	フォルダ
売上 (前月)	フォルダ
月	属性
前月	属性
月数	ベースフォーミュラ
月	表現プロンプト
前月	フィルタ
今月	フィルタ
今月 (日)	フィルタ
月次業績トレンド (A)	レポート
キャッシュの月次業績 (A)	レポート
販売員の月次業績 (A)	レポート
週次売上の指定日累計 (ロケーション、月、週) (A)	レポート
月次業績トレンド (A)	テンプレート
キャッシュの月次業績 (A)	テンプレート
販売員の月次業績 (A)	テンプレート
週次売上の指定日累計 (ロケーション、月、週) (A)	テンプレート
年、月、週、日	階層
年、月	階層
年、月、週	階層
年、シーズン、月、週、日	階層
売上高の前月比変更率	メトリック
売上高 (前月)	メトリック
売上単位の前月比変更率	メトリック
売上取引数の前月比変更率	メトリック
月平均頻度	メトリック
売上単位 (前月)	メトリック
売上取引数 (前月)	メトリック
月に対する在庫切れ日数の比率	メトリック
月数	メトリック

オブジェクト名	オブジェクトタイプ
デッドネットコストの前月比変更率	メトリック
総仕入れ原価の前月比変更率	メトリック
基準原価の前月比変更率	メトリック
市場売上高の前月比変更率	メトリック
売上取引数の前月比変動	メトリック
純総仕入れ原価の前月比変更率	メトリック
売上単位の前月比変動	メトリック
売上高の前月比変動	メトリック
純総仕入れ原価の比較 (前月)	メトリック
市場売上単位 (前月)	メトリック
デッドネットコスト (前月)	メトリック
市場売上高 (前月)	メトリック
市場売上高 (月)	メトリック
総仕入れ原価の比較 (前月)	メトリック
基本仕入れ価格の比較 (前月)	メトリック
デッドネットコストの比較 (前月)	メトリック
日数 (月)	メトリック
総仕入れ原価 (前月)	メトリック
月次平均利益	メトリック
純総仕入れ原価 (前月)	メトリック
基準原価 (前月)	メトリック
月次平均売上高	メトリック
指定日までの月	変換
前月	変換